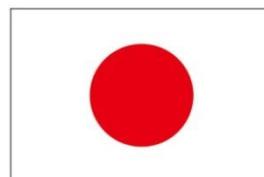


# 第 16 回 ODA 評価ワークショップ



2019 年 1 月 29、30 日

タイ・バンコク



**From  
the People of Japan**

## 目次

写真	1
プログラム	7
共同議長サマリー	9
発表要旨	11
発表者プロフィール	15
参加者の声	18
参加者リスト	19
略語一覧	23

【開会セッション】

開催国代表による挨拶



桑原進  
外務省国際協力局審議官



バンチョン・アモーンチーウィン  
タイ外務省国際協力機構（TICA）  
副局長・局長代理

【第1セッション：SDGsと国家開発政策における評価】



（発表者）インドラン・ナイドー  
国連開発計画（UNDP）評価部長



（発表者）佐々木亮  
国際開発センター（IDCJ）  
評価部主任研究員



（発表者）ワンチャット・スワンキティ  
タイ国家経済社会開発委員会  
（NESDC）  
社会データベース・統計開発事務所課長



(コメンテーター) 村岡敬一  
外務省 ODA 評価室長/  
OECD・DAC 開発評価ネットワーク  
(EVALNET) 副議長



(コメンテーター) ナラヤン・ダカール  
ネパール財務省国際経済協力  
調整局課長

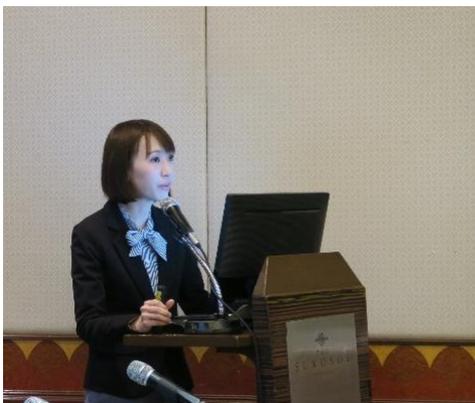


ディスカッションの様子



ディスカッションの様子

【第2セッション：参加各国における評価の課題】



(コメンテーター) 橋本璃夏子  
外務省 ODA 評価室事務官



(報告者) タシ・ドルジ  
ブータン国民総幸福委員会  
上級研究員



(報告者) エルソン・マルティニョ・  
ダ・コスタ  
東ティモール財務省  
援助データ管理官



ディスカッションの様子



ディスカッションの様子

【第3セッション：プロジェクト評価の評価手法ーインフラセクターを事例としてー】



(発表者) 江口雅之  
独立行政法人国際協力機構評価部  
審議役兼次長



(発表者) 川岸千夏  
独立行政法人国際協力機構評価部  
事業評価第一課専門嘱託



(発表者) サランユ・ウィリヤウェージ  
ヤクン 上級大佐/博士 (理学)  
タイ周辺諸国経済開発協力機構  
(NEDA) 副長官



(発表者) スン・シン  
アジア開発銀行 (ADB) 独立評価局  
インフラプロジェクト専門官



(コメンテーター) タンダー・ウイン  
ミャンマー計画・財務省国庫局主査



(コメンテーター) チャリティ・  
ラモス-ガラクガク  
フィリピン国家経済開発庁  
公共投資部門課長補佐



ディスカッションの様子



ディスカッションの様子

【タイ外務省国際協力機構主催夕食会】



夕食会で交流する参加者



夕食会で交流する参加者

【第4セッション：評価の質やシステムを向上するツールとしての DAC 評価規範と評価項目】



(発表者) ハンス・ラングレン  
OECD/DAC 事務局評価課長



(コメンテーター) ロメオ・サントス  
アジア大洋州評価協会 (APEA)  
会長



ディスカッションの様子



ディスカッションの様子

【閉会セッション】



共同議長サマリーを読み上げる  
湊氏とワッチャワンク准教授



閉会セッションの様子

【集合写真】



第16回 ODA 評価ワークショップ プログラム

-SDGs 時代における評価：評価能力開発とアカウンタビリティに向けた知見の共有-

プログラム

第1日目 (2019年1月29日)	
9:30-10:00	<p><b>開会セッション</b></p> <p><b>【開会挨拶】</b>                      バンチョン・アモーンチーウィン タイ外務省国際協力機構 (TICA) 副局長・局長代理                      桑原進 外務省国際協力局審議官</p> <p><b>【共同議長によるワークショップ議題説明】</b>                      (共同議長)                      タイ側：シリポーン・ワッチャワンク タマサート大学准教授                      湊直信 日本評価学会理事 (元アジア太平洋評価学会副会長)</p>
10:00-10:10	<b>写真撮影</b>
10:10-10:20	コーヒープレイク
10:20-12:00	<p><b>第1セッション</b> <b>SDGsと国家開発政策における評価</b></p> <p><b>【発表-1】</b>「国家開発評価と2030アジェンダ」                      インドラ・ナイドー 国連開発計画 (UNDP) 独立評価局 (IEO) 長</p> <p><b>【発表-2】</b>「アジア諸国におけるSDGsモニタリング評価の進捗と残された課題」                      佐々木亮 国際開発センター (IDCJ) 評価部主任研究員</p> <p><b>【発表-3】</b>「タイにおけるSDGs: 成果と課題」                      ワンチャット・スワンキティ タイ国家経済社会開発委員会 (NESDC) 公的政策戦略事務所課長</p> <p><b>コメンテーター：</b>                      村岡敬一 外務省 ODA 評価室長/OECD-DAC 開発評価ネットワーク (EVALNET) 副議長                      ナラヤン・ダカール ネパール財務省国際経済協力調整局課長</p> <p><b>【議論】</b></p>
12:00-13:30	昼食
13:30-14:30	<p><b>第2セッション</b> <b>参加各国における評価の課題</b></p> <p><b>コメンテーター：</b> 橋本璃夏子 外務省 ODA 評価室事務官</p> <p><b>【各国の報告】</b>                      タシ・ドルジ ブータン国民総幸福委員会上級研究員                      エルソン・マルティニョ・ダ・コスタ 東ティモール財務省 援助データ管理官</p> <p><b>【議論】</b> 参加者に事前配布したアンケート結果に基づき、議論を実施</p>

14:30-14:45	コーヒーブレイク
14:45-16:45	<p><b>第3セッション</b> <u>プロジェクト評価の評価手法</u> <u>ーインフラセクターを事例としてー</u></p> <p><b>【発表-4】</b>「JICA 事後評価と教訓の活用」 江口雅之 独立行政法人国際協力機構評価部審議役兼次長 「セクター課題の深堀分析：新港開発における有用な教訓の 導出」 川岸千夏 独立行政法人国際協力機構評価部事業評価 第一課専門嘱託</p> <p><b>【発表-5】</b>「NEDA のインフラ評価の紹介」 サランユ・ウィリヤウェージャクン 上級大佐/博士（理学）/ タイ周辺諸国経済開発協力機構（NEDA）副長官</p> <p><b>【発表-6】</b>「説明責任と能力開発の為の独立評価：ADB における運輸 プロジェクトの評価を基軸として」 スン・シン アジア開発銀行（ADB）独立評価局 インフラプロジェクト評価官</p> <p><u>コメンテーター：</u> タンダー・ウィン ミャンマー計画・財務省国庫局主査 チャリティ・ラモス-ガラクガク フィリピン国家経済開発庁公共投資部門 課長補佐</p> <p><b>【議論】</b></p>
18:30-20:00	タイ外務省国際協力機構主催夕食会
第2日目（2019年1月30日）	
09:30-11:00	<p><b>第4セッション</b> <u>評価の質やシステムを向上するツールとしての DAC 評価 規範と評価項目</u></p> <p>－ 議題説明：村岡敬一 外務省 ODA 評価室長</p> <p><b>【発表-7】</b> ハンス・ラングレン OECD-DAC 事務局評価課長</p> <p><u>ゲスト・コメンテーター：</u>ロメオ・サントス アジア大洋州評価協会（APEA） 会長</p> <p><b>【議論】</b></p>
11:00-11:30	コーヒーブレイク
11:30-12:00	<b>閉会セッション</b> 共同議長サマリー
12:00-13:30	昼食

共同議長サマリー  
第16回 ODA 評価ワークショップ  
2019年1月29日/30日 タイ、バンコク

**第1セッション：SDGsと国家開発政策における評価**

本議題ではSDGsと国家開発政策について議論が行われた。

- 国連開発計画（以下、UNDP）のインドラン・ナイドー氏は、2030アジェンダにはフォローアップとレビューのプロセスが国主導の評価とデータによって説明されると指摘した。それでも、評価システムを運用するための適切な組織的キャパシティー、知識および人材が不足している国が多い。これらの課題を解決するにあたり、評価能力を強化するためのUNDPの役割も紹介された。
- 国際開発センターの佐々木亮氏は、3か国における持続可能な開発目標（以下、SDGs）のモニタリングと評価の進捗状況や特徴を提示した。これらの国では国ごとの状況に基づいた指標を用いた独自のモニタリングシステムが構築されたが、SDGs指標の多くは「メタデータ」を必要としている。また、「評価の論理」に関連する課題についても言及し、この課題を解決するための国際的な努力を求めた。
- タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）のワンチャット・スワンキティ氏は、タイにおけるSDGs評価と国家開発政策の関係について報告した。また、具体的な例を挙げて人々の持続可能な幸福（sustainable happiness）を達成するための、タイにおける「足るを知る経済哲学」の概念を紹介し、SDGsを達成するためのタイ省庁と主要関係者の責任、そして人々のニーズに基づいたローカルレベルにおけるデータ収集の重要性についても言及した。
- 外務省の村岡敬一 ODA 評価室長は、SDGsを国家開発政策に同期させることの技術的課題を指摘した。また、評価能力開発のための国際的支援の必要性についても提起した。
- ネパールのダカル氏氏は、SDGsのモニタリングと評価に関するネパールの経験について説明し、これに続き、証拠に基づく政策立案のためのデータの重要性についてもコメントした。
- 国連女性機関（UN Women）のエヴァンジェリスタ氏は、人々を巻き込むことの必要性についてコメントし、続いてアジア太平洋評価学会（APEA）、モルディブ、独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）、カンボジア、インドネシア、東ティモールからの参加者の発言があった。

**第2セッション：参加各国における評価の課題**

本議題では、ワークショップ前に送付された国家開発政策の評価とSDGsのモニタリングに関するアンケート回答に基づき、参加各国の課題と取組が紹介された。

- 外務省の橋本事務官は、参加各国のアンケート結果を簡潔に発表。多くの国では国家開発政策とSDGsと関連が確認され、ブータンのドルジ氏と東ティモールのダ・コスタ氏、バングラデシュ、カンボジア、フィリピン、ラオス、ネパールの参加者より経験談が共有され、各国ともに同様の課題が存在することを確認した。

### 第3セッション：プロジェクト評価の評価手法—インフラセクターを事例として—

本議題では、インフラセクターの ODA 案件の様々な評価手法や評価経験について議論した。

- JICA 評価部の江口雅之審議役兼次長は、JICA の全般的な評価システムについて紹介した。 JICA 評価部の川岸千夏専門嘱託は、JICA による新港開発における教訓の深堀分析のケーススタディについて説明し、セクターの技術的知見を持つ内部人材を活用して実用的な教訓を導出する取り組みを紹介した。
- タイ周辺諸国経済開発協力機構（NEDA）のサラユ・ウィリヤウエージャクン氏は、同機構の役割と評価の枠組みを提示するとともに、成功したインフラ案件の詳細計画の重要性を強調し、カンボジア国道 67 号線の改善プロジェクトの評価事例を共有した。
- アジア開発銀行（ADB）のスン・シン氏は、ADB の独立した評価システム、評価基準およびタイの大メコン圏域高速道路拡張プロジェクトの事例を紹介するとともに、交通プロジェクト評価における課題と、評価に影響を与える重要事項について提案した。
- コメンテーターであるミャンマーのタンダー・ウィン氏、フィリピンのチャリティー・ラモス-ガラクガク氏は分野横断的な分析のポイントを挙げ、各国の評価システムとその成功と失敗事例について紹介した。

### 第4セッション：評価の質やシステムを向上するツールとしての DAC 評価規範と評価項目

本議題では、評価の質やシステムを改善するためのツールとしての OECD/DAC 評価基準と評価項目について議論した。

- 議題の背景と目的について村岡氏が議題説明をし、OECD/DAC のハンス・ラングレン氏は同委員会の活動を紹介します、DAC 評価ネットワークによって策定された評価基準とガイダンスを提示した。
- ラングレン氏の発表後、APEA のロメオ・サントス氏より、本議題について、評価項目を簡潔にし、明確な定義をつけることをコメントとして指摘した。
- 全体議論では、評価機能を強化するにあたって評価規範とガイダンスの使用に関する各国ごとの経験共有、国際規範をローカルレベルへ使用/適応する方法及び組織や人材の評価能力向上の手法について議論が行われた。

## 発表要旨

(発表順)

### 第1セッション：SDGs と国家開発政策における評価

#### 発表-1：SDGs と国家開発政策における評価

---

インドラン・ナイドー 国連開発計画（UNDP）独立評価局（IEO）長

本発表において、SDGs の計画段階と政策立案にあたっての国家開発政策の取組と課題について説明する。

2030 アジェンダでは、フォローアップとレビューのプロセスは国主導の評価とデータによって説明されるとある。しかし、自国政府や NGO/NPO が証拠に基づく政策立案（EBPM）を可能とする評価システムを運用するにあたり、適切な組織内の能力、知見及び人材が不足している国が多く見受けられる。

本発表では、評価能力を強化するために UNDP の独立評価局（IEO）が実施する多くの役割について説明する。その取組の1つが、国家開発政策能力開発（National Evaluation Capacities）会議と国家開発政策を自己診断するオンライン評価ツールである。

NEC 会議は、SDGs に焦点を当てた各国の経験と知見を共有し、複数の関係者が分野横断的な支援の効率性を評価するための革新的なアプローチを検討している。また、評価環境を構築する上で、政治的および制度的な課題についても話し合いが行われている。

オンライン評価ツールは、国家開発政策の診断と戦略の組立を容易にする専用のツールです。このツールは、政府のさまざまなレベルでの適用を想定しているため、連邦政府、地方/州政府および地方自治体でも柔軟に活用できる。

SDGs 達成には、SDGs のフォローアップとレビューのプロセスをさまざまなレベルおよびセクター間でより強く結び付けることが不可欠である。評価能力向上には、評価アジェンダ、システムとプロセスおよび次なるプロセスを早めに予測する為のラーニング・ループを定義するために、各国の評価に対する強いオーナーシップが必要とされる。

#### 発表-2：アジア諸国における SDGs モニタリング評価の進捗と残された課題

---

佐々木亮 国際開発センター（IDCJ）評価部主任研究員

いくつかのアジア諸国（ベトナム、インドネシア、ネパール）における SDGs に関するモニタリング評価の実践の比較を行い、共通する進捗状況や特徴を分析した。その分析結果を踏まえて、「評価の論理」（The logic of evaluation）から見た残された課題を指摘した。最後に課題の改善のための提言を行った。

3 か国の比較分析から明らかになったことは以下のとおりである。

- 3 か国とも、自身の国家開発計画に SDGs のゴールを深く統合している。
- 3 か国とも、SDGs の数値目標に対して数値データで進捗の状況を報告している。
- 3 か国とも、国ごとの状況に基づいた指標を用いた独自のモニタリングシステムを構築している。なお、いずれの国も「メタデータ」の不足を指摘している。それらのデータ

を得る新しい情報源およびデータ収集の仕組みと、対応する計算の仕組みが求められている。

以上の分析を踏まえた「評価の論理」から見た残された課題は次のとおりである。

- そもそも評価対象：SDGsの進捗それ自体か、あるいはSDGsの達成に向けた活動か？
- 評価の正式な定義と、SDGsモニタリング評価への適用
- 評価の結論を得るための体系的統合の手続きの適用
- 評価における価値観の取り扱い：SDGsはグローバルに共有された価値を明らかにする
- 誰がSDGsに関する評価をすべきか？ 内部評価と外部評価
- 内部妥当性（因果関係）と外部妥当性（一般化可能性）の問題
- 倫理に関する配慮：「公共・一般的な福祉」とはまさしくSDGsそのものである。

最後に、これらの課題は真剣に議論されるべきであり、提案された手続きは、各国政府および国連機関での適用が検討されるべきである。

#### 発表-3：タイにおけるSDGs：成果と課題

---

ワンチャット・スワンキティ タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）公的政策戦略事務所課長

タイは2015年以来、SDGsをタイの国家開発目標の一つとして採用してきた。本発表では、タイがどのように国家戦略、国家経済社会開発計画、国の改革計画、その他のレベルの行動計画にSDGsを組み入れているかを探る。また、本発表では持続可能な手法でSDGsを達成する際の指針として導入している、タイの「足るを知る経済」哲学理念についても説明する。また、「足るを知る経済」哲学（Sufficiency Economy Philosophy (SEP)）に基づく活動例を示し、タイがSDGs達成に向けて実践するグッドプラクティスを説明する。タイの開発モニターと評価に活用しているSDGs指標についても触れる。さらに、SDGs達成の為の関係者または開発パートナーの重要性についても言及する。

### 第3セッション：プロジェクト評価の評価手法ーインフラセクターを事例としてー

#### 発表-4.1：JICA事後評価と教訓の活用

---

江口雅之 独立行政法人国際協力機構（JICA）評価部審議役兼次長

JICAの事後評価の主目的は説明責任と学びの二つである。一般的に、PDCAサイクルの中で、教訓を将来のプロジェクト形成と実施の改善に向けて活用することの強化は多くの組織の関心である。この点に関して、JICAは、個別事業の事後評価結果から導かれた教訓の情報システムである教訓検索システム（LLS）の他に、評価結果のセクター横断分析により10分野で165のナレッジを創出した。

しかしながら、それらの活用はナレッジ・データ・システムを作るだけでは十分ではなく、組織内で利用を促す運用メカニズムが必要である。その意味で、JICA評価部は、事後評価の

実施の他、プロジェクト担当部門が適切に教訓を反映できるよう、プロジェクトの計画段階から承認段階に至るまで、複数回の文書レビューを通じてプロジェクト担当部門へ直接的なアドバイスを試みている。

プレゼンテーションでは教訓を新規のインフラ案件形成に適用した例を紹介する。

#### 発表資料-4.2：セクター課題の深堀分析：新港開発における有用な教訓の導出

---

川岸千夏 国際協力機構（JICA）評価部事業評価第一課専門嘱託

JICA では事後評価結果を活用し、セクター課題を掘り下げて分析することにより、より有用な教訓の導出に取り組んでいます。この発表では、セクターの技術的知見を持つ内部人材を活用して行われた、港湾セクターにおける深堀分析をご紹介します。分析の結果、新港開発案件の教訓として導出された以下の点もあわせてご説明します。

- (1) 需要予測に関する問題
- (2) 新港の利用に向けた政策に関する問題
- (3) 運営・維持管理に関する問題

#### 発表-5：NEDA のインフラ評価の紹介

---

サランユ・ウィリヤウェージャクン上級大佐/博士（理学） タイ周辺諸国経済開発協力機構（NEDA）副長官

本発表では、事後評価に焦点を当て、インフラ分野におけるプロジェクト評価の基本概念を提示する。NEDA がどのように評価の目的と手法をカスタマイズしているかを示すため、NEDA の評価手順から説明し、続いてプロジェクト完了後に評価すべき重要事項について指摘する。最後に、ケーススタディと合わせて NEDA のこれまでの経験を説明し、今後に向けての提案をする。

#### 発表-6：説明責任と能力開発の為の独立評価：ADB における運輸プロジェクトの評価を基軸として

---

スン・シン アジア開発銀行（ADB）独立評価局インフラプロジェクト評価官

本発表は、ADB の独立評価局（IED）が、ADB が支援しているプロジェクト評価で使用する手法と評価項目に焦点を当てる。輸送分野プロジェクトへの評価手法の適用についても事例として提示する。

本発表の概要は以下の通り：

- (1) IED のプロジェクト評価のプロセスと評価基準
- (2) IED が評価した輸送分野プロジェクトの事例研究：評価結果と教訓
- (3) 輸送分野プロジェクトの評価における課題と提案

## 第4セッション：評価の質やシステムを向上するツールとしての DAC 評価規範と評価項目

### 発表-7：評価の質やシステムを向上するツールとしての DAC 評価規範と評価項目

---

ハンス・ラングレン OECD-DAC 事務局評価課長

OECD の DAC 評価ネットワークによって開発された評価規範とガイダンスについて発表する。ここでは、評価規範が開発された理由とその重要性について明確にし、評価方針、評価用語集、評価項目と品質基準、特定の評価分野におけるガイダンスを含む主要な評価規範のツールについて重点的に説明する。本発表では、現在 OECD-DAC において主要焦点である評価項目の適用についての現状報告も行う。また、合意された評価規範をモニタリングする方法についても説明し、最後に各組織内の評価文化を強化するための重要項目について説明する。

公開議論では、評価を強化するための評価規範やガイダンスに関する各国の経験共有と、現地の文脈に合わせた国際規範の適応方法について話し合う機会とする。

## 発表者プロフィール

(発表順)

### 第1セッション：SDGsと国家開発政策における評価

インドラン・ナイドー

---

国連開発計画（UNDP）独立評価局（IEO）長

2012年以降国連システム最大の評価機関を率い、評価者のための専門的ネットワークである国連評価グループ（UNEG）の副議長を務める。指導的立場で20年以上の経験を持ち、主に国内外での意思決定におけるエビデンスの利用促進に取り組んでいる。IEOの局長としては、UNDPの評価部門で中心かつ包括的な改革を導いた。英語学、地理学、教育および評価での学位及び修士号を取得し、出版物や国際的な発表実績も多数。

佐々木亮

---

国際開発センター（IDCJ）評価部主任研究員

現在、国際開発センター評価部主任研究員。ウェスタンミシガン大学評価研究所博士（Ph.D.）、ニューヨーク大学ワグナー公共行政大学院公共行政学修士（MPA）。大阪大学、名古屋大学、立教大学で長年、講師を務めた。日本評価学会理事。アメリカ評価学会会員。

ワンチャット・スワンキティ

---

タイ 国家経済社会開発委員会（NESDC）公的政策戦略事務所課長

1995年にNESDC入局後、ライフサイクル開発戦略、国家経済社会開発計画、国家改革など、様々な政策/戦略の策定を経験。特にコミュニティベースの開発、貧困と不平等の縮小、政府の効率性に関するビッグデータなど様々な政策知識管理にも携わる。現在は開発分野におけるタイ発祥の「足るを知る経済（Sufficiency Economy Philosophy：SEP）」哲学（充足経済哲学）と持続可能な開発目標（SDGs）を結びつけ、それぞれの状況に合うような実践例を考案している。また、タイが安全保障、繁栄、持続可能性を備えた先進国になるという目標・ビジョンを唱えた20年間の国家戦略を、充足経済哲学に従って翻訳するための23のマスタープランの策定に取り組んでいる。

### 第3セッション：プロジェクト評価の評価手法—インフラセクターを事例として—

江口雅之

---

国際協力機構（JICA）評価部審議役兼次長

江口雅之は1991年にOECD（海外経済協力基金）に入社。多数のODA業務経験のうち、

JBIC（国際協力銀行）と JICA の業務運営評価課長、ODA 借款の企画課長、ブラジル次長、ペルー所長を歴任。2018年7月より現職。早稲田大学経済学士および中央大学公共経済修士。

川岸千夏

---

国際協力機構（JICA）評価部事業評価第一課専門嘱託

2018年1月に JICA 評価部専門嘱託に着任。主な業務として、都市・地域開発セクター、環境管理セクターのプロジェクト評価を担当。JICA 入構以前には、民間金融機関に勤務し、リスク管理業務に従事した。

サラヌー・ヴィリヤベジャクル上級大佐、博士

---

上級大佐/博士（理学）/タイ周辺諸国経済開発協力機構（NEDA）副長官

近隣 7 カ国との経済開発協力を担当。また、政策企画局、第二プロジェクト管理運用室（ブータン、カンボジア、ミャンマー、スリランカ担当）、技術課も担当。

スン・シン

---

アジア開発銀行（ADB）独立評価局インフラプロジェクト評価官

様々な運輸関連プロジェクトの計画、実施、評価の経験を持つインフラ関連の専門家として公共・民間分野において 20 年以上の経験を持つ。ADB 入行以前は、米国バージニア州のフェアファックス州運輸局で上級運輸計画官を務め、複合一貫輸送プロジェクトを管理。

#### 第 4 セッション：評価の質やシステムを向上するツールとしての DAC 評価規範と評価項目

ハンス・ラングレン

---

OECD-DAC 事務局評価課長

40 以上の省庁、二国間および国際機関からの評価担当者および専門家を統括する OECD-DAC 開発評価ネットワーク（EvalNet）を監督。DAC 評価原則、評価および結果重視マネジメントの重要用語の用語集策定、DAC 評価規範と評価品質基準を含む、開発評価分野での国際規範の開発における草案作成や合意形成を先導した。また大規模な国際評価にも貢献し、評価政策やシステムに関する二国間および国際機関への進言もした。

ロメオ・サントス

---

アジア大洋州評価協会（APEA）会長

フィリピンでの JICA 都市開発プロジェクトのチームリーダーを務めたのち、2000 年から開発評価のキャリアを始める。1986 年から建築業界に携わり、2007 年にモニタリングと評価

の実務へ移行した。2008年にカナダのカールトン大学で世界銀行が支援している開発評価研修国際プログラム（IPDET: International Program for Development Evaluation Training）で公式な評価研修を積む。現在は APEA の会長を務める。評価協力国際組織（IOCE: International Organization for Cooperation in Evaluation）評議員。欧州評価協会の企業自己評価ワーキンググループの共同リーダー。建築工学の博士号を取得し、プロジェクト・マネジメントと経済学を専門分野としている。現在はフィリピン大学教授。

## 参加者の声

### UNDP

ODA 評価ワークショップは参加者間で良い気運と参加の機会をもたらした。本ワークショップの取組は続けるべきで、必要とあらば、国連開発計画（UNDP）に代表される国連組織と共催することも一案である。

### ブータン

本ワークショップは他の評価組織とネットワークする土台を提供してくれた。

### インドネシア

本ワークショップで学んだことは、SDGs 達成に向けてインドネシアの評価ツールを作成する際に役立つ。

### ラオス

本ワークショップで学んだことは同僚と共有し、自国で実施している評価案件の改善に活用することができる。

### ミャンマー

ミャンマーは開発パートナーが支援する多くの円借款及び無償資金協力を実施している。（第3セッションで学んだ）事業評価手法は、ミャンマーの持続可能な開発計画を策定する際に役立ち、本ワークショップに参加したことはとても貴重な経験だった。

### ネパール

開発支援のプロジェクト/プログラムのモニタリングを担当することが多い。本ワークショップで学んだことは、モニタリングの課題解決に役立つ。

### フィリピン

本ワークショップで得た知識は、フィリピンの国家開発計画のフレームワーク及び国家開発ポータル指針を最終化するにあたってとても役立つ。本ワークショップの取組をぜひ続けてほしい。

### パキスタン

過去の ODA 評価ワークショップにおいて、各国が自らの経験、評価手法及び課題を共有し、パキスタンの将来のプロジェクト・計画を策定する際にとっても役立ち、自国の評価計画に大きなインパクトをもたらす。

## 参加者リスト

国/機関名	組織名	肩書き	名前
<b>共催国の代表</b>			
タイ	タイ外務省国際協力機構 (TICA)	副局長・局長代理	バンチョン・アモーンチーウィン氏 Mr. Banchong AMORNCHEWIN
日本	外務省国際協力局	審議官	桑原進氏
<b>共同議長</b>			
タイ	タマサート大学	准教授	シリポーン・ワッチャワンク博士 Dr. Siriporn WAJJWALKU
日本	日本評価学会	理事	湊直信氏
<b>発表者</b> (発表順)			
タイ	タイ国家経済社会開発委員会 (NESDC) 公的政策戦略事務所	課長	ワンチャット・スワンキティ博士 Dr. Wanchat SUWANKITTI
UNDP	国連開発計画 (UNDP) 独立評価局 (IEO)	局長	インドラン・ナイドー博士 Dr. Indran NAIDOO
日本	国際開発センター (IDCJ) 評価部	主任研究員	佐々木亮博士
日本	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 評価部	審議役兼次長	江口雅之氏
日本	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 評価部 事業評価第一課	専門囑託	川岸千夏氏
タイ	タイ周辺諸国経済開発協力機構 (NEDA)	副長官	サランユ・ウィリヤウェージャクン氏 上級大佐/博士 (理学) Senior Colonel Saranyu VIRIYAVEJAKUL, D.Sc.
ADB	アジア開発銀行 (ADB) 独立評価局	インフラプロジェクト評価官	スン・シン氏 Mr. Sung S. SHIN
OECD/DAC	OECD/DAC 事務局	評価課長	ハンス・ラングレン氏 Mr. Hans LUNDGREN
<b>コメンテーター</b> (発表順)			
日本	外務省大臣官房 ODA 評価室	室長	村岡敬一氏
ネパール	財務省国際経済協力調整局	課長	ナラヤン・ダカール氏 Mr. Narayan DHAKAL
フィリピン	フィリピン国家経済開発庁公共投資部門	課長補佐	チャリティ・ラモス-ガラクガク氏 Ms. Charity Gay RAMOS-GALACGAC
ミャンマー	計画・財務省国庫局	主査	タンダー・ウィン氏 Ms. Thandar WIN
フィリピン	アジア太平洋評価学会	会長	ロメオ・サントス博士 Dr. Romeo SANTOS

各国参加者			
バングラ デシュ	財務省経済関係局	課長補佐	ハディージャ・パーヴィーン氏 Ms. Khadija PARVEEN
ブータン	国民総幸福委員会	上級研究員	タシ・ドルジ氏 Mr. Tashi DORJI
カンボジア	カンボジア開発評議会 復興開発委員会	アジア・大洋州 局長	ブーニダ・バナー氏 Ms. Veunida PHANA
フィジー	財務省	上席経済企画官	メレ・ザカウニタンブア氏 Ms. Mere Salato CAKAUNITABUA
インド	財務省経済局	事務官	ラルシャンドラン・ムラリ氏 Mr. Ramachandran MURALI
インドネシア	インドネシア国家開発 企画庁（BAPPENAS） 二国間外国資金局	アジア担当次長	ヌルシヤフ・ハリハンディア氏 Mr. Nursyaf RULLIHANDIA
ラオス	計画投資省国際協力局	アジアアフリカ 課長	ソムキット・カオヤフアン氏 Mr. Somkhit KAOYAHOUANG
マレーシア	経済省経済企画院	課長	ジャヤ・クマラン氏 Mr. Jaya Kumaran K P VENGADALA
モルディブ	外務省	課長補佐	ジーナ・モハメド・ディディ氏 Ms. Zeena MOHAMED DIDI
モンゴル	大蔵省	開発財政局長	バトフー・イデシュ氏 Mr. Batkhuu IDESH
ミャンマー	計画・財務省国庫局	主査	タンダー・ウィン氏 Ms. Thandar WIN
ネパール	財務省国際経済協力 調整局	課長	ナラヤン・ダカール氏 Mr. Narayan DHAKAL
パキスタン	財務・歳入・経済省	日本担当課長	ラシード・ソヘイル氏 Mr. Rashid SOHAIL
フィリピン	フィリピン国家経済 開発庁公共投資部門	課長補佐	チャリティ・ラモス-ガラクガク氏 Ms. Charity Gay RAMOS-GALACGAC
スリランカ	国家政策・経済省 対外援助局	課長補佐	アジット・クマラ氏 Mr. Ajith CHANDRA KUMARA
東ティモール	財務省	援助データ管理 官	エルソン・マルティニョ・ダ・コスタ 氏 Mr. Elson Martinho DA COSTA
共催国からの参加者			
タイ	タイ外務省国際協力 機構（TICA）	計画・モニタリ ング課長	ハタイチャノック・シリワッタナ グン氏 Ms. Hataichanok SIRIWADHANAKUL
タイ	タイ外務省国際協力 機構（TICA）	開発協力担当官	パッチャラー・コシナノン氏 Ms. Patchara KOSINANONT
タイ	タイ外務省国際協力 機構（TICA）	開発協力担当官	パウイダー・クラチャイ氏 Ms. Phawida KRACHAI
タイ	タイ外務省国際協力 機構（TICA）	開発協力担当官	ドゥアンカモン・ウィッタヤピッタウ オン氏 Ms. Duangkamol VITTAYAPITAKVONG
タイ	タイ外務省国際協力 機構（TICA）	一般行政担当官	チュティダー・プリアンシー氏 Ms. Chuthida PLIANSRI

タイ	タイ外務省国際協力機構 (TICA)	一般行政担当官	ヌッチャー・イワンパン氏 Ms. Nutchai IWAMPAN
タイ	タイ国家経済社会開発委員会 (NESDC)	課長	ワンチャット・スワンキティ氏 Mr. Wanchat SUWANKITTI
タイ	タイ周辺諸国経済開発協力機構 (NEDA)	副長官	サランユ・ウィリヤウェージャクン氏 上級大佐/博士 (理学) Senior Colonel Saranyu VIRIYAVEJAKUL, D.Sc.
タイ	タイ周辺諸国経済開発協力機構 (NEDA)	プロジェクト分析官	ワシット・アヌンタウィーチェン氏 Mr. Wasit ANUNTAVICHIEEN
タイ	タイ財務省公債管理局 国営企業債務管理 2 課	課長	スタワン・ワンナスクサイ氏 Ms. Suthawan WANNASUKSAI
タイ	タイ財務省公債管理局 国営企業債務管理 2 課	上席エコノミスト	ナティゴーン・タンティポン氏 Ms. Nartikorn TANTIPONG
タイ	タイ保健省	計画・政策分析官	警察少佐 スリワン・ タイプラヨーン氏 Pol.Maj.Suriwan THAIPRAYOON
日本	外務省大臣官房 ODA 評価室	室長	村岡敬一氏
日本	外務省大臣官房 ODA 評価室	事務官	橋本璃夏子氏
日本	在タイ日本国大使館	経済公使	関口昇氏
日本	在タイ日本国大使館	三等書記官	阿部泰平氏
日本	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 評価部 事業評価第一課	審議役兼次長	江口雅之氏
日本	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 評価部 事業評価第一課	専門囑託	川岸千夏氏
日本	独立行政法人国際協力機構 (JICA) タイ事務所	所員	ジャマリー・ヤムクリンフン氏 Ms. Jamaree YAMKLINFUNG
日本	独立行政法人国際協力機構 (JICA) タイ事務所	所員	スパック・スースッティクン氏 Ms. Suphak SUESUTTHIKUL
<b>タイにおける国際機関からの参加者</b>			
ESCAP	アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) タイ事務所	所員	パトリシア・ウォン氏 Ms. Patricia Bi Yi WONG
ESCAP	アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) タイ事務所	所員	マリア・ミソヴィコワ氏 Ms. Maria MISOVICOVA
FAO	国連食糧農業機関 (FAO) タイ事務所	所員	ヴィクター・モル氏 Mr. Victor MOL
UNDP	国連開発計画 (UNDP) タイ事務所	所員	ウイスート・タンティナン氏 Mr. Wisoot TANTINAN
UN Women	国連女性機関 タイ事務所	所員	サブリーナ・エヴァンジェリスタ氏 Ms. Sabrina EVANGELISTA

USAID	米国国際開発庁 (USAID)タイ事務所	所員	ニグーン・ジッタタイ氏 Ms. Nigoon JITTHAI
WFP	国連世界食糧計画 (WFP) タイ事務所	所員	兼光由美子氏

## 略語一覧

ADB	アジア開発銀行
APEA	アジア太平洋評価協会
DAC	(OECD の) 開発援助委員会
EvalNet	(OECD-DAC の) 開発評価ネットワーク
FAO	国連食糧農業機関
IDCJ	国際開発センター
IED	(ADB の) 独立評価局
IEO	(UNDP の) 独立評価機関
JICA	国際協力機構
M&E	モニタリングと評価
NEDA	タイ周辺諸国経済開発協力機構
NEDA	フィリピン国家経済開発庁
NESDC	タイ国家経済社会開発委員会
ODA	政府開発援助
OECD	経済協力開発機構
PDCA Cycle	政策策定 (Plan) →実施 (Do) →評価 (Check) →反映 (Act) サイクル
SDGs	持続可能な開発目標
SIDS	小島嶼開発途上国
TICA	タイ国際協力機構
UNDP	国連開発計画
UNESCAP	国連アジア太平洋経済社会委員会
UN Women	国連女性機関
USAID	米国国際開発庁
WFP	国連世界食糧計画